

復興のシンボル「新しい国立公園」



写真：環境省

三陸復興国立公園

日本は、被災した東北地方の太平洋沿岸（三陸地域）の豊かな自然をつないで、平成25年5月に三陸復興国立公園をつくりました。

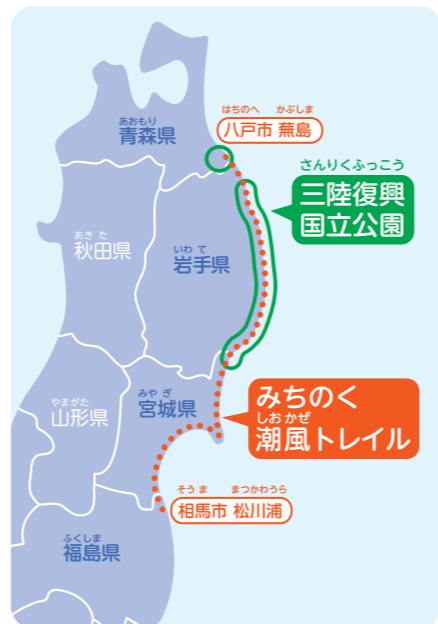
南北に約220km、北部は「海のアルプス」ともいわれる大断崖、南部は入り組んだ地形が美しいリアス海岸が続く広大な公園です。海岸にはウミネコやオオミズナギドリなどの海鳥の繁殖地があり、野生生物を間近で観察することができます。

自然の美しさやおそろしさを学び、人と自然の関わり方を改めて考えられる場として、被災した地域の復興の助けとなることを目指しています。

みちのく潮風トレイル

トレイルとは、森林や原野、里山などにある「歩くための道」を指す言葉です。ここでは、歩くスピードで旅することで、車の旅では見えないたくさんのものにふれ、人と自然のつながりや人と人とのつながりを感じながら歩くことができます。

みちのく潮風トレイルは、すべてが開通すると、青森県八戸市蕪島から福島県相馬市松川浦までをつなぐ、全長約700kmの歩道になります。



自然と協力してグリーン復興

地熱を利用した発電

被災した福島県福島市の土湯温泉では、豊富な温泉の熱で発電した電気を用いて地域の復興に取り組もうとしています。



藻類を利用した発電

宮城県仙台市の下水処理場では、藻類を利用して下水の中にくまられる有機物から発電や船のための燃料となるオイルをつくる研究が行われています。



知ってる？ 健康を見守るために

福島県では、震災が起きた2011年から現在まで、放射線による健康への影響を調べる「県民健康調査」を行っています。この調査は、震災の時に福島県に住んでいた子どもたちを中心に、すべての住民を対象にしています。

おわりに・・・

『こども環境白書2015』を最後まで読んでいただき、ありがとうございました。ESDを毎日の中に取り入れ、「今も将来も、幸せに暮らせる社会」を目指すこと、環境問題を解決するために「考え、学び、気づくこと」は、大人から子どもまで、みなさん一人ひとりが今すぐ取り組めることです。未来の地球を救うため、ESDで環境問題を解決してみましょう。

